

## M. N. 英語英文学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 留学決定から出発までの準備期間

合格したことが嬉しいあまり、また、合格まで TOEFL に本当に苦しんだあまり、ほぼ何もしなかったと言っても過言ではありません。しかし、speaking が苦手だったので、基本的な文を声に出して何回も発音し、頭にたたきこむようにしました。また、渡英の準備はかなり前からしっかりとやりました(パソコンの充電器を忘れましたが。笑)

#### ② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

4月から7、8月まで。毎日朝9時ごろから3~5時ごろまでぎっしりとスケジュールが組まれています。内容は、speaking, writing, reading が中心で、時に、イギリス文化を新聞やメディアを通して学びました。最初のころは、BBC や地元の小学校訪問などの課外授業もありました。1年終わって振り返ってみると、このころが一番大変だった気がします。

#### ③ 正規科目履修期間

- ・ 履修科目の決定

① Human geography 人々の生活の歴史と、町の発展がどのように関連しあってきたか など。(週2回の授業、週1回のセミナー)

② physical geography 主に、地球温暖化について。(週2回の授業、週1回のセミナー)

③ Modern Britain for the arts 小説や古い映画などを使い、当時の考え方や文化を学ぶ。(週1回の授業、週1回のセミナー(2時間))

④ Modern Britain for social science 現代の英国企業を通して英国文化や問題点を見る。(③に同じ)

- ・ 授業、レポート、定期試験

①と②: 私たちは5月に行われるテストを受けることはできないので、課題の essay によって成績がつけられます。ですが、この課題も、それぞれの教授によって違うので、何で成績をつけられるかはその教授次第です。私は、それぞれの授業で、2000字の essay が2回ありました。

③と④: これらのテストはしっかりと決まっています、discussion と writing と essay です。

#### ④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

参加しませんでした。

#### ⑤ 現地ででの住まい(語学研修期間、正規科目履修期間)について(寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など)

Runnymede 2 Hall に1年間住みました。狭い!汚い!なのに家賃高い! え〜。と思いました。ですが、すぐ慣れていくと思います。海外はきっとあんなもんです。ですが、キャンパス内にあ

るので、便利だし、TESCO スーパーにはほかの寮よりは近いと思います。シャワーもトイレの一応ありますし。 私たちは High field か Runnymede のどちらかだと思いますが、High のほうが最近工事され、きれいになっていると思うのでお勧めです。

#### ⑥ 長期休暇の過ごし方

長期の休みと、時々ある reading week という1週間の有難いお休みを使って、計9カ国を旅行しました。貧乏旅行でしたが、得たものは本当に本当に大きかったです。この旅は一生の宝ものになりました。

#### ⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

帰国の1、2ヶ月前、つまり2月ころから始めました。リクナビはずっと前に登録していたので、気になる企業を研究をしたり、実際にエントリーしたりしました。「就職活動は置いて、留学に集中したほうが良い」という声が多いとは思いますが、私は、絶対に帰国前に始めておくべきだと思います。授業との両立は本当に大変ですが、帰国してから切ない思いをするより、できることは帰国前にやっておいたほうが良いです。これ本当に！

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったこと…。思い浮かびすぎて、何を書けばいいやら。授業も楽しかったし、寮生活も楽しかった。ロンドンを一人でブラブラするのもすごく楽しかったし、スーパーに行くだけでも楽しかった。要は全てが楽しかったです。イギリス大好きだった私にとって、何もかもが嬉しかったです。しかし、やはり、本当に仲良くなったフラットメイトとの何気ない会話、夕食が一番の思い出です。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

就職活動と授業やテストの両立が一番つらかったです。帰国直前の2、3月はもう本当に大変でした。Geography のセミナーも、イギリス人4人と私1人で非常につらかったです。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

これはもう、全て書いたら卒論の長さになってしまうかもしれません。それほど多かったです。しかし、それが外国で暮らすということの醍醐味でもあるので、最終的にはカルチャーショックも楽しんでいました。例えば、①授業中に一番前の席でおもむろにバナナをとりだし、ほうばりながらノートをとる。りんごをかじりながらテストをうける。それに対して皆無反応。

- ・ 明らかにコートが必要な真冬に半そで or キャミソール。
- ・ スーパーのレジを通す前に物(サンドイッチなど)を食べ、その空の入れ物をレジにだす。ほかにもたーくさんあります。皆さん、楽しみにしてください。笑

## III. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

<良い点>

- 1) ロンドンやヒースロー空港に比較的近いこと。
- 2) キャンパスが綺麗！芝生が最高！
- 3) 私たちのコースを担当してくれる先生方が優しい。

<悪い点>

- 1) 何事にも適当。
- 2) 寮担当のオフィスの人たちが頼りにならない。寮に関しては色々悩むこと必至です。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

- 1) ノートパソコンは絶対に持って行ってください。パソコンが留学生の全てです。
- 2) 洗濯ネット
- 3) 日本食ほかにもあった気がしますが、思い出せません。すみません。

③ 語学力の向上等、留学の成果

TOEIC は行く前の点数から約100点は伸びました。リスニング力は確実についてくるので、自然と点数もアップします。安心してください。会話力も、ペラペラだ！とは言えませんが、普通のコミュニケーションはとれるレベルにはなったと思います。留学の成果は、一言で言えば、度胸と根性と少しの自身がついたことです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

帰国して1ヶ月がたち、就職活動に追われ、留學生活がだいぶ前のように感じます。ですので、上記の解答が少々適当になってしまい、すみません。アドバイス一つ目は、「留学の夢を絶対に諦めないでください。」私の大学入学時の TOEIC の点数は、クラスでも最下位を争うくらい低レベルなものでした。でも協定留学に対する熱意は、誰にも負けない自信がありました。一度 TOEFL の点数が留学試験の直前まで足らず諦めかけましたが、最後のチャンスと思って受けたテストで、突然点数があがり応募資格の点数が取れたのです。「英語はできないけど、留学したい思いは誰にも負けない！」そんな人を応援しています。留学合格までの道のりは、英語不得意な人にとってはすごく辛いです。でも、諦めないでやれば大丈夫！私が証拠です。がんばってね。二つ目は、「留學生活何とかなる。」これは留學決定後の話ですが、色々な不安がでてくるとは思います。行ったら、何とかなるんです。だからあまり心配しすぎないでね。皆さんの留學がすばらしいものになるよう応援してます！

## H. Y. 日本語日本文学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 留学決定から出発までの準備期間

保険の加入、航空券の手配、パソコンの購入など。

学部の事務室や教授に挨拶に行きました。特に3 年生での留学でしたので、帰国してからのゼミ教官には、帰国してからゼミに受け入れていただけるよう、またその後の計画についてお話しするお時間をいただきました。

#### ② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

International Building に付属する C B S E A P コースに所属。07 年度は日本人 10 人、中国人 2 人のクラスでした。月～金曜の毎日、だいたい朝 9 時半～午後 3 時ぐらいまでの授業で、タイムテーブルは毎週かわります。また週替わりで、イギリスの地理・政治・歴史・教育などのテーマが設定され、それに合わせたレクチャーやディスカッションを通して、英国について学び、語学力を鍛えます。BBC 見学、地元の学校見学などの課外学習も実施されました。夏休みまでの 12 週で、エッセイを 4 回提出し、うち 2 回のエッセイ、最終週に実施されるプレゼンテーションとディスカッションで成績評価がなされました。

1 か月弱の夏休みのあと、プレセッションというコースを受講します。各国から集まる新入生 10～12 人ぐらいのクラス、4 週間でエッセイ、プレゼン、ディスカッション、インタビューを行い、正規科目履修に備えました。

#### ③ 正規科目履修期間

・ 履修科目の決定渡航前に C B S E A P の応募書類に希望を記入。これは希望調査程度で、のちに考慮されることはありませんでした。夏休み前に、本格的な希望調査が行われました。オープンキャンパスで学部説明会に参加したり、パンフレットを参照して希望を C B S E A P コースのマネージャーに提出します。夏休みの間に、マネージャーを通して、科目の実施される学部に履修可能か審議され、夏休みのあと、正式に科目を決定します。

・ 授業、レポート、定期試験

#### □ Introduction of Human Geography

専門用語や概念の理解、人文地理学としての世界の捉え方を具体例と共に学びます。ある地域について、地理・政治・経済・歴史・文化など様々な角度から分析しました。レクチャーは、週 2 回で 80 人ぐらいの規模、そのうち留学生は 5 人ぐらいでした。全レクチャーのハンドアウトが事前に渡され、PowerPoint で板書される内容と、リーディングリストが掲載されています。予習復習に便利でした。セミナーは、教官 1 人学生 4、5 人で行われます。頻度、時間、課題は指導教官によります。私の場合は週 1 回、4 人のイギリス人

学生と私の 5 人でした。セミナー時間内は主に、レクチャーに関連する内容のディスカッションで理解を深め、毎週なんらかの課題が出ました。エッセイ、本の要約、自分の意見の要約、参考文献の収集課題などでした。私は 3 月に帰国し、正規の試験を受けないため、それらの課題と 2 回の大きなエッセイ、セミナー内でのディスカッションなど総合評価で成績がつかしました。

#### □ Geography of Development

**Development** とは何か、どのような解決方法があるのか、どの地域が問題に面しているのか、世界各国を見渡します。同じく週 2 回のレクチャーで 80 人くらいの規模、留学生は 10 人くらいでした。レクチャーのハンドアウトは毎回授業終了後に配布され、まとめと参考資料が掲載されていました。セミナーは上記の **Introduction of Human Geography** と同じ学生、教官、形式で進められました。エッセイとグループプレゼンテーション、ディスカッションによる成績評価でした。

上記 2 科目とも、**Geography Department** からの履修で、1 年生の必修科目です。

#### □ Spanish Beginner I A・B

**International Building** からの履修で、さまざまな国、学部の学生が履修しています。週 2 回、2 時間ずつの授業で 1 クラス 15 人程度でした。秋学期では、現在形と、レストランやホテルなど場面ごとの会話を、春学期には過去形、完了形、未来形を学習しました。以下は成績の配分です。学期に 2 回の提出課題（ポートフォリオ）が 20%。ワークブックの提出が 10%。学期末に試験が 70%。試験はスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングでした。

#### ④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

秋学期が始まると新入生対象のクラブ紹介があり、勧誘活動が行われます。

**Ballroom Dance** 部に所属。週 2 回、夜 8～12 時の練習に参加していました。火曜日は大会を目指し、あるいは高度なステップに挑戦するクラスで、木曜日は基礎から楽しく練習するクラスでした。日本でいう競技の社交ダンスとは違い、単純に楽しむスポーツ・趣味のダンスなので、大会に出るのでなければ、運動靴・ジーンズの参加でかまいませんでした。

**History enactment** 部に秋学期のみ所属。週 1 回、日曜日午後の練習に行ったり行かなかったり。本物の武器（剣・短剣・斧・槍？）を使って戦います。攻防の両方を学んだら、チーム戦など実戦へ。皆で海賊映画を観たり、武器マーケットへ出かけたりと交流の機会がたくさんありました。

#### 日本語クラスの Teaching Assistant

**International Building** でボランティアの TA をさせていただきました。事前研修で日本語教育について心構えをご指導いただいたあと、実際にクラスに入り、先生と学生の両方を

お手伝いしました。具体的には、ロールプレイの実践や、例文の音読、実際のいまの日本の紹介などでした。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

キャンパス内にある学生寮のうちのひとつ、HighfieldCourt に住んでいました。渡航前にインターネットを通じて申し込み、4回に分けてインターネットから寮費を支払いました。HighfieldCourt は大学院生を対象にした寮で、6か8人のフラット形式です。部屋にはベッド、机、本棚、洋服ダンス、スタンドライト、ヒーターがあります。バスルームは個人の部屋についており、トイレ、洗面台、シャワーが入っています。キッチンには共有で、冷蔵庫2台、電子レンジ、オーブン、コンロ、湯沸かし器、食器棚、テーブルセット、掃除機、アイロンがあります。レセプションには郵便受け、有料の洗濯機と乾燥機があります。07年夏にリフォームが入り、鍵はカード式・オートロックになりました。

このリフォームのため、夏の数か月の間だけ、Wedderburn という学生寮に住んでいました。学部生も対象にした寮で、8人フラットです。Highfield に比べて部屋も机もバスルームも広く、ダブルベッドでした。が、そのためか少し寒かったです。

⑥ 長期休暇の過ごし方

スコットランド、バース→ブリストルへの小旅行や、イタリアや東欧などのヨーロッパへ友人と旅行へ行きました。また訪ねてきてくれた家族と国内外で過ごしたり、夏休みはギリシャへ友人を訪ねていきました。クリスマス・お正月は交通機関やスーパーマーケットが止まるので、備えて買いこみ、友人宅で過ごしました。ロイヤルホロウェイはロンドンへ電車で1時間以内という立地も魅力ですが、他にもオックスフォードまで1.5時間、ストンヘンジ、カンタベリー、ブライトンなど日帰りで行くことができるので、バンクホリデーなどの2、3日の休みに出かけることもありました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

2月中旬からインターネットでエントリーシートを出しました。しかし面接や説明会に参加できないことが多く、結局は4月に帰国してから本格的に取り組み始めました。日本で就職活動をする友人からのメールに焦る気持ちもありましたが、それよりも留学中の生活や学業を優先さし、毎日を充実させることにしました。

## II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

毎日が楽しかったです。たくさんの人と出会い、フラットで誰かと話をしたり、友達と出かけたり、些細な毎日が思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

アコモデーションオフィスに振り回されたこと。Highfield寮のリフォームにあわせて、別の寮に引っ越し、また元のHighfieldへ戻ってくる際、工事が期日までに終わらず、そのことに事務が対応できずにいたため、明日住む場所がどこかもわからない状態になりました。どこの事務所からも解答が得られず、たらいまわしにあいました。こういうことは多々あると先輩からきいていましたが、それでも1年で1番苦労し、腹が立ち、途方に暮れました。いち学生の立場からはどうすることもできず、CBSEAPコースへ何度も相談をし、最終的にはそちらからアコモデーションオフィスのトップへ連絡をとってもらいました。結局期日から1か月遅れての入寮となりましたが、元の寮のHighfieldへ戻ってきたときは、やっと落ち着いて住む場所が確保できて、ほっとしました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

レディーファーストであること、ディスカッションでは、はっきり意見を述べること、よくビールを飲むこと、意外とイギリス人はシャイな人が多いこと。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

CBSEAPコースに参加できてよかったです。正規授業に入る前に、しっかりと準備をするため、学期が始まってからの学部の勉強に集中することができました。また所属コースがあること、正規授業が始まってからもコースに個人のチューターがいたことで、上述のアコモデーションなどでどうしても困ったとき、サポートしてもらえる利点もありました。ほか、多国籍の学生と寮生活ができること、ロンドンやオックスフォードに近い立地もメリットだと思います。

### ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン。エッセイやプレゼンテーションのために必要です。寮にインターネットがあり、ネット上での学習やメールチェックなどを頻繁に行うので必需品だと思います。大学にはコンピューターセンターとプリンターはあります。

常備薬・湿布。イギリスに湿布は存在しないのかもしれませんが。捻挫で保健室に行き、シップをくださいというと、バンドエードが出てきました。炎症を抑える塗り薬ならありました。

コンタクトレンズ用品。洗濯ネット・靴下干し。小さい軽い折りたたみ傘。ストッキング。カイロ。好きな本やCD。などが、イギリスではすぐに手に入らないもの、あるいはあるかもしれないけど高いものだと感じました。（余談ですが、白餡だけは、日本食のお店でも見当たりませんでした。）

### ③ 語学力の向上等、留学の成果

語学力に関して、なかなか向上が実感できずに歯がゆい思いをしましたが、毎日英語で暮

らすので自然とリスニングは上がってきます。また話すことも、日常会話ならある程度こなせるようにはなりました。留学終盤は、話すだけでなく、どのように話すか、どうすれば自然な英語になるかに腐心していました。

1年の留学で、ちょっとのことでは動じないくらいタフになり、また不測の事態に冷静に対処するようになりました。

#### ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学でしか出来ない経験があります。こうして振り返ると、何気なく過ごしていた1年間の毎日が、とても貴重なものであったと改めて思います。楽しいことだけでなく、辛いことも腹立つこともあって、ひとことでは留学が何だったのか言い表すのは難しいのですが、人生のうちでとても大きな1年になると思います。ココロに残るだけでなく、世界観と人生を変える出会いや経験をたくさんしてきました。チャンスと希望があるならば、ぜひ留学にチャレンジしてほしいと思います。

また留学をした先で、貴重な1年をどう過ごすのか、日々考えてほしいと思います。たとえ留学する機会に恵まれても、どういう留学にするのかは自分次第です。人と比較するのではなく、自身の価値観に問いかけ、自分にとって素晴らしい留学生活を作ってください。

また人に頼ることも大切です。安全の面でも、生活の上で何か不安なことがあれば、身近な人や学校などいつも誰かに知らせておいたほうが安心です。また悩んでいることも話せば頭が整理されてきます。留学は一人ではできず、家族や学校や友人に支えられて実現するものだと思います。

最後になりましたが、これを読まれている方が、留学に興味をもってください、ロイヤルホロウェイで素敵な1年間を過ごされますよう、こころから願っております。



## K. Y. 英語英文学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 留学決定から出発までの準備期間

1 1 月に留学が決定し、そこから4月中旬の渡英まで準備期間約5か月の間、定期試験まではとにかく授業に専念していました。語学の面ではラジオ英会話を聞いたり、ipod にニュースを取り込んでそれを聞いていたりしました。春休み中は実家で英会話をしたり、どのような科目を取りたいか考えたりしていました。

#### ② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

同女からの留学生は、ほかの大学や国から来ている人と一緒に CBSEAP というコースに所属します。私たちは日本人10人、中国人2人のクラスでした。ESL 期間は speaking, listening, writing などアカデミックに必要なスキルの授業の他、毎週イギリスに関するトピックがあり、それについてレクチャー、ディスカッション、エッセイなどの方法で学んでいきました。エッセイは、初めは500字からスタートして最後は1500字でした。トピックはイギリスの選挙の仕組み、youth culture, イギリスの地理など、様々でした。コースの最後に評価として、グループプレゼンテーション、ディスカッション、エッセイがありました。

#### ③ 正規科目履修期間

##### ・履修科目の決定

私は 20<sup>th</sup> Century World History を通年と Spanish を履修していました。History に関しては、元々履修したいと思っていた科目だったのですが、Spanish は履修期間に決めました。CBSEAP の学生は履修できる科目が割と制限されていると思います。ただし、その科目について特化した知識があれば考慮してもらえるとと思います。History は前期がアジア全般の現代史、後期はアフリカ、南アメリカの現代史でした。Spanish は主に会話に重点を置いた授業だったと思います。また、Academic と並行して ESL コースも受けることができました。

##### ・授業、レポート、定期試験

History はレクチャー、セミナーがありました。レクチャーは大教室で、40人程度の学生と受けます。セミナーはグループに分かれ、1グループ10人程度でした。セミナーの前に読まなければいけない Reading があり、私は背景知識に乏しかったので、それを埋めるために Reading list 以外にも補助的に Reading はしていました。Essay は学期に2回、計4回、2000字程度でした。また、学期に1回個人のプレゼンテーションがありました。Spanish はクラスが週に2回、クラスは15人程度でした。学期に2回ずつ課題があり、

評価は出席と課題、ワークブック提出、テストでした。テストは半期ごとにオーラルとライティング・リスニングのペーパーがあります。

#### ④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブは聖歌隊に参加していましたが、途中から行かなくなりました。その他、学内のジムで、週1でヨガのクラスをとっていました。ボランティアというほどでもないですが、日本語のクラスを取っている何人かの友人に授業外で日本語を教えていました。

#### ⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

留学期間を通して学内のフラットに住んでいました。契約していたフラットが改装工事ということで夏の間は別の寮に住んでいました。1年を通して計3回引っ越しをしました。引っ越しと改装工事の遅れとそれに対する Accommodation office への対応は本当に大変でしたが、3度もフラットが変わったことで、新しい出会いができたことは、今から考えるとよかったことかな、と思います。フラットはキッチンのみシェアで、部屋にバスとトイレがついています。8人、男女でシェアをしていました。様々な国のフラットメイトとフラットをシェアできたことは本当によい経験でした。キッチンも改装後は非常に綺麗になり、しばしばお菓子を作ったり友人とお茶会をしたり、と居心地が良かったです。すぐ隣の塔に友人が住んでおり、夜でも行き来できる距離に友達がいてくれたことも、本当に心強かったです。フラットメイトとケーキ作りに熱中したこと、たわいのないことを話したこと、今となっては本当によい思い出です。

#### ⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は国内外を旅行して歩きました。夏と冬には家族が遊びに来てくれたので、一緒にイギリス国内を周りました。旅先でたくさんの経験をする事ができたことは一生忘れません。

#### ⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

WEBを使って何社かエントリーを出した程度でした。具体的な就職活動というよりは、将来自分がどういう道に進みたいのか、5年後10年後どうなっていたいのかということによく考えていました。MBAを取りに来ている方からお話を伺ったことや、年齢、国籍に限らず周りの友人と将来について話したりしたことが様々なアイデアを得る良いスパイスになったと思います。SPI問題集や履歴書も日本から送ってもらったりしましたが、特に焦ることもなくむしろイギリスでの生活に焦点を当てるように心がけていました。ただ、帰国後は時間がないと思い、TOEICだけはイギリスで受けてから帰りました。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中に楽しかったことは特別これ！というよりは、日々の生活です。たまたま道でばったり友人と出くわしてそこで小一時間話し込んだり、図書館でテスト勉強をしよう！と言いながら結局世間話で終わったり、一輪車で登校している学生を見つけたり、夜通し話しこんで気づけば外が明るくなっていたり、誰かの誕生日パーティー！となったらキッチンを総動員して料理を作ったり、毎日なにかしら、楽しいこと、新しい発見がありました。落ち込む日でも、誰かの笑顔を見ると元気になれました。私が毎日楽しく暮らすことができたのは周りにいてくれる友人たちのお陰だったと思っています。たくさんの素敵な人に出会えたこと、これが最も思い出に残っていることです。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中でつらかったことはホームシックにかかったことです。あとは、Essay です。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

驚いた、というよりは、自分の意見ははっきりと言わなければ相手には伝わらないんだなと思いました。自分の考え、意見は主張することがあたり前とされている中で生活をしていくと、自然と何事もまず自分で考えてみる、という力がついたように思います。文化の違いではないかもしれませんが、ほかの国から来た学生は自分の国の政治などについてきちんと自分の考えを持っていて、それに興味を持っているんだなということを知って驚きましたし、自分ももっと日本で何が起きているのか興味を持とうと思いました。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、ランゲージセンターのサポートがしっかりしている点です。アカデミックが始まってからも Essay の添削を受けたり、プレゼンについて質問をしたりと、かなりサポートしていただきました。

悪かった点は、Accommodation Office など各部署の連帯が取れていないこと、対応が非常に悪いことです。

### ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは持っていきました。家族や友人とスカイプなどをするのにも役立ちますし、ぜひ持参することをお勧めします。

ただ、大学でも24時間パソコン室は使えますし、日本語も打てます。印刷もお金はかかりますが、どのパソコンからも印刷できます。課題などをするときには部屋だと気が散るので、対外図書館かパソコンルームのパソコンを使っていたと思います。

### ③ 語学力の向上等、留学の成果

どれだけ向上したかは自分ではわかりませんが、向上したことは確かだと思います。特にリスニングは耳が慣れてきますし、リーディングも慣れるとコツがつかめてくると思いま

す。エッセイも書き始めは1週間で2000字・・・とってしまいますが、どうにかこうにかかなります。語学は習うより慣れろかと思えます。

成果と言えるほどのことかはわかりませんが、留学を通して、度胸がついたと思えますし、たいていのことでは動じなくなったと思えます。それから、まず自分でよく考えてみよう、と心がけるようになりました。

#### ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学してみたいな～と思っている方、ぜひチャレンジしてみてください！！大学4年間の中でできることは限られていると思えます。でも、大学生活を生かすのも殺すのも自分次第です。私は大学入学当初は特に英語力があつたわけでもなく、ただ行きたい！という気持ちだけで留学しました。留学したい！という気持ちがあればぜひその気持ちを大切に行動に移してみてください。きっと、そこから世界が広がってくると思えます。ぜひ皆さんにもかけがえのない時間を味わってほしいな、と思えます。諦めずにがんばってくださいね！

## A. W. 英語英文学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 留学決定から出発までの準備期間

留学決定が決まってからすぐは特に準備という準備はしていませんでした。しかし年が明けて出発が近づいてくるにつれ、日用品などの準備の費用がかかる為、アルバイトをしていました。出発準備に関しては、私は大変遅く、出発間近に一気に必要なものをそろえたので、色々と必要なものを持参するのを忘れ、大変な思いをしました。一番悲惨だったのは銀行のカードを持参するのを忘れたことで、1 週間ほどカードが届くまでは手持ちのお金で過ごし、大変不安でした。なので、準備は早いに越したことはないです。語学面に関しては、少しでも英語力を上げていこうと、単語を覚えたりして準備をしました。

#### ② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

語学研修の期間は4月から8月までありました。大きく分けて2つのコースを受講したのですが、初めのコースの CBSEAP (4月～6月) は日本人が主のコースで日本人10人、中国人2人でした。主にイギリスの文化や社会を学びながらの語学研修コースでした。Language centre の先生方はとてもやさしく、おもしろくて、毎日が充実していました。そして何よりも、英語習得の基礎を一からわかりやすく教わったコースでした。特に、エッセイの書き方やディスカッションの行い方は丁寧にわかりやすく教わり、その後の正規授業で大変役にたちました。また、生徒一人一人に担当の先生がついてくださり、週に1回、色々な相談ができるコンサルテーションの時間もあり、授業のことだけでなく、私生活の問題などの相談にもものってもらいました。その後、1か月間の新たな語学研修に参加しました。(7月～8月) これは日本人だけでなく、色々な国籍の生徒と学びました。特にアジアの学生がほとんどでした。6クラス制で、クラスは大体レベル別に分けられていました。ここでの授業もこのコースの前に行っていたコースの短縮版といった内容でした。

#### ③ 正規科目履修期間

8月までの語学研修が終わった後、ランゲージセンターの先生から正規科目決定のオリエンテーションを受けます。そこで9月からの正規科目の決定を行います。科目決定の際も先生方が親身になってサポートをしてくださいました。私は秋に International relations (通年) Background of Modern Britain for the Arts (半期)、春に同じく International relations と Background of Modern Britain for Social Science (半期) を受講しました。International relations はランゲージセンターの科目ではなかったので、ほとんどの生徒はイギリス人で、その他はヨーロッパの生徒でした。アジア人は全くといっていなかったのクラスでは私だけがアジア人でした。このコースでは主にEUを主体とした国際関係を

学びました。毎回の授業内容は週に1回、レクチャーがあり、その後1時間のセミナーがありました。このセミナーは毎回ディスカッションが行われ、毎週のトピックについて生徒同士が議論し合います。私以外はほぼネイティブだったので、授業についていくのが大変でした。レポートは通年で3回あり、1500から2000字のレポートでした。定期テストは受けなくてもよかったです。もう一方の **Background of Modern Britain for the Arts** と **Background of Modern Britain for Social Science** はランゲージセンターのコースで、生徒全員が留学生でした。これらのコースは毎回レクチャーを受け、2時間のセミナーがあり、生徒と議論したり、プレゼンテーションを行ったりします。レポートは1500字のものが1回で、最後にオーラルのテストとライティングのテストがあり、総合評価されました。

#### ④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブはゴスペルのクラブに所属していました。毎週1回大学にある教会に集まってゴスペルを歌っていました。メンバーは皆とても優しく、留学生の私をよろこんで受け入れてくれました。時にはコンサートを行ったりと色々なイベントもありました。課外活動としてはホームステイを行いました。週末ホームステイの体験ができる **Host UK** という機関があり、そこに応募、登録し、夏の休みを使い、ホームステイを行いました。ホストの家族はすごく優しく、イギリスの生活や文化を身をもって体験できたとてもよいプログラムでした。とても仲良くなり、その後、クリスマスと帰国前にも訪ねさせていただきました。

#### ⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

現地での住まいは語学研修期間、正規科目期間すべて寮でした。わたしは女子専用のフラットだったのでとても生活しやすかったです。私のフラットは6人でシェアするフラットで、キッチンが共同、あとは個人の部屋、シャワー、トイレがありました。しかし、6月から9月まで寮の改装が行われた為、その期間中他の寮に引っ越ししなければなりませんでした。キャンパス内での引っ越しでしたが、大変な距離があった為、タクシーで皆で協力して引っ越しをおこなわなければならず、大変でした。そして改装完成後、また初めの寮に引っ越しをしておきました。改装後はキッチンもリニューアルし、部屋のカーペットなどがきれいになりました。しかし、設備の欠陥が多く、テレビの電波がなかったり、お湯がでなくてシャワーが浴びれなかったり、ヒーターがつかなかったり、換気扇がこわれていたりと色々な不備があり、修理に大変時間がかかり困りました。

#### ⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇にはヨーロッパの各国を旅行しました。現地には格安の航空会社があるので、それを使い、かなりの安価で旅行することができました。一番安かった際は、航空運賃が2円でイタリアまで行くことができました。ホテルはユースホステルを使ったりしてかなり

リーズナブルに旅を行いました。その為1年間で8カ国程を観光することができました。ヨーロッパ各国でもやはり国によって雰囲気違ったのでとても楽しむことができました。

#### ⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

1月2月位に主にインターネットで会社研究を行いました。しかし留学中だったので説明会などには参加できないため、インターネットで会社の感じをつかむといった感じでした。3月になると、多数の会社がエントリーシート選考を行っていたので、WEBからエントリーを行ったり、郵送でイギリスからエントリーシートを送ったりしました。しかし、多くの会社が説明会参加必須だったのでこの時期にエントリーできた会社は少なかったです。留学先からの就職活動は日本との時差などがあって大変でしたが、WEBで企業研究をするなど、インターネットを使って情報収集をしておく、帰国してからの就職活動がスムーズに行えると思います。

## II. 留学の感想

#### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で楽しかったことはフラットメイトと楽しく毎日を過ごしたことです。私のフラットは私を含めて日本人が2人、中国人が1人、オマーン人1人、ウクライナ人1人、ミャンマー人が1人のメンバーで毎日を過ごしました。みんな仲がよく、毎日ご飯を一緒につくって食べたり、カードゲームを夜な夜な行ったり、映画を見に行ったり、いろんなことについて語り合いました。わたしにとって家族のようなあたたかさがそこにはありました。特に印象に残っているのはみんなで自国の料理をつくりあったことです。私の場合はみんなで寿司をつくりました。みんなとても日本食が好きで、よく日本食を一緒に作って食べました。この何気ない彼女たちとの生活がとても私にとって大切に楽しかった思い出です。

#### ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学中で最もつらかったことは次々と出された課題でした。特に私はエッセイが苦手だったので、提出しても提出してもどんどん出てくるエッセイには大変苦勞しました。毎回1500～2000字のエッセイが出るたびに、図書館に行き、何冊も本を借り、部屋に引きこもって書きました。しかし、このおかげでライティングの力はつきました。

#### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

イギリスの文化・習慣の違いで驚いたことは、何事に関しても日本人とは違い、気楽にこなしているということです。特に驚いたのは、仕事中でもパソコンで遊んでいたり、お店にいても日本のお店とは違い、きめ細やかなサービスはなく、店員同士でおしゃべりをして接客をおこなわなかったりという光景を何度も見かけました。イギリスの人たちは日本人のように慌ただしい生活を送っているのではなく、とてものんびり、マイペースに生活していることに気がつきました。付け加えて、日本の接客サービスは世界のトップクラ

スに値すると改めて実感した機会でもありました。

### Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

#### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Royal Holloway のよかった点はまず、ロンドンに近かったことです。電車で40分くらいでいけたので、買い物や息抜きに行くのにとっても便利でした。あとは総合共学大学でありながら全校生徒が6000名程度だったので大きすぎず、施設など使う際もとても使いやすかったです。そして校舎がお城のようでとても綺麗でした。悪かった点は、スタッフの対応の悪さです。特に寮のスタッフは問題が多々起きているのにもかかわらず、なかなか問題解決をしてくれなかったりと、とてももどかしい思いを何度もしました。

#### ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

特に役に立ったものはパソコンです。これは絶対に必要だと思います。エッセイを書いたりするのに必要なのと、連絡を取り合ったりする上で必要不可欠でした。あとは、日本食です。現地ではロンドンまでいかないとなかなか日本食は買えず、値段は高いです。やはり日本食が恋しくなると思うので、インスタントの日本食は持参した方がいいと思います。あとは薬です。自分にあつた風薬などをもっていくと安心だとおもいます。特に、シップは現地では売っていませんでしたので、持って行って大変役に立ちました。

#### ③ 語学力の向上等、留学の成果

留学後、語学力は大変アップしたと思います。TOEIC も高得点を取ることができたのと、なにより、スピーキング力が上がりました。私はアカデミックなスピーキング力はほぼなかったのですが、今では英語できちんとディスカッションができるまでになりました。あとはライティング力の向上です。エッセイが苦手だった私が1500、2000字のエッセイは難なく書けるようになりました。これも留学をしたおかげだと思っています。

#### ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私にとってこの留学経験は大いに成長した時期でした。異文化の中で、色々な考えをもった人々に会い、色々なことを吸収できました。私がこの1年間で学んだことは、受け身でいず、まず、行動するという事です。初めからダメだと決めつけず、失敗を恐れずに色々なことにチャレンジしてみてください。必ず大きな成果を得られるはずです。留学を通して今まで思いもしなかったことを感じたり、学んだりすると思います。その思いは必ず一生の宝ものになるはずです。なので、あきらめずに様々なことにチャレンジしてみてください。